

シンポジウム「現生生物の生態と古生物」を開催して

近藤洋一*・岸元良輔**

Introductory remarks of symposium on ecology of living life and the life of past geological periods

KONDO Yoichi and KISHIMOTO Ryosuke

現生生物の生態についての研究は、環境問題の関心の深さもあり、近年大きな進展をみせている。長い時間をかけたフィールドでの地道な観察記録が、定説をくつがえしている研究は数多く報告されている。一方、古生物とくに古生態学の分野では、生痕化石の研究の進展はあるものの、最近の生物学での成果にたった新しい視点での研究にはいたっていないのが現状であろう。野尻湖の発掘で行っている氷河時代における自然環境の復元作業にとっても、最新の現生生物生態研究の成果を学ぶことはたいへん有意義なことと考える。

そこで、2000年10月21・22日に化石研究会第115回例会を長野県の信濃町公民館野尻湖支館で開催するにあたって、「現生生物の生態と古生物」と題するシンポジウムを行うことにした。当日のシンポジウムでは、野生生物の生態研究や飼育環境下でのさまざまな動物行動についての話題提供をしていただき、その中から古生態研究に役立つ情報が得られないかを探ることにし、8名の演者によってつぎのような講演があり、議論がなされた。

- 1) シンポジウムの開催にあたって 世話人
- 2) 野尻湖における水生植物の現状と復元実験 樋口澄雄（長野県衛生公害研究所）
- 3) ゾウの生態—特に飼育下におけるゾウについて— 川口幸男（エレファント・トーク；元上野動物園）
- 4) 足跡化石からみたゾウの群れ 樽野博幸（大阪市立自然史博物館）
- 5) 大型哺乳類の社会生活と生活痕跡 岸元良輔（長野県自然保護研究所）
- 6) 野ネズミ類の個体群動態、行動とブナ科樹木の繁殖特性 箕口秀夫（新潟大学農学部生産環境科学科）

- 7) ブナ林の更新過程 井田秀行（信州大学教育学部付属志賀自然教育研究施設）
- 8) 樹洞を利用する鳥類の種間関係 堀田昌伸（長野県自然保護研究所）
- 9) 長野県における微小陸貝類の生息環境と分布 飯島国昭（高森南小学校）
- 10) 野尻湖層の生痕化石 品田やよい・野尻湖生痕グループ

まず、水生生物界として、現在の野尻湖における水生生物環境について話題提供をしていただいた。

そして、飼育下における現生ゾウの生態の話と足跡化石におけるゾウの古生態研究の方法についてコメントをいただいた。また、大型哺乳類の社会生態、野ネズミ類とブナとの関係、樹洞をつくる鳥類、また陸貝の生息環境など、地道なフィールドワークによる観察結果によって、詳細な生態系の姿が明らかになっていることを学ぶことができたと思われる。

このなかで、いくつかのキーワードを抽出することができよう。第1のキーワードは「群れ」である。ゾウにしろ、カモシカにしろ、それぞれの種特有の群れ行動が認められ、それが生活痕跡としてサインを残す可能性が指摘された。足跡化石などからどのようにその種特有の「群れ」を認識することができるか、については今後の課題であるが、ナウマンゾウやオオツノジカなどについては、そのようは視点での検討が必要になってくるだろう。

第2は、動物と植物との関係である。ネズミ類とブナの関係や鳥類と樹洞をつくられる樹種の関係など

2001年3月23日受付、2001年5月30日受理

* 〒389-1303 長野県上水内郡信濃町野尻287-5 野尻湖ナウマンゾウ博物館 Nojiriko Museum

** 〒381-0075 長野県北郷2054-120 長野県自然保護研究所 Nagano Nature Conservation Research Institute

は、古生態研究にもたいへん示唆に富む情報であったと思われる。

実際に、食痕のある果実の化石は野尻湖でも多く産出しているが、どのような動物のものであるかは、いまだに同定されていないので、同定できる可能性が指摘されたことは重要である。

陸貝の分野はまったく未知の研究分野であって、今後の研究が期待される場所である。

最後に野尻湖における生痕化石の研究が紹介され

た。時間がなく、十分な議論が尽くせなかったこともあるが、現生生物学と古生物との溝はふかまるばかりである感がいねなかった。情報量が格段に違うのはいたし方がないにしても、もっと情報交換を活発にして、多様な研究手法が求められていることは確かであろう。

いずれにしろこのようなシンポジウムははじめての試みで、お忙しいところ時間をさいて、話題提供していただいた方々には、厚くお礼申し上げる次第です。